

# キングデラ

登録番号：第836号

登録年月日：昭和60年7月6日

登録者：中村弘道（大阪府大阪狭山市大野中446）

育成者：中村弘道

来歴：「レッド・パール」と「マスカット・オブ・アレキサンドリア」の交雑実生

## 特性

### ■栽培特性

樹の大きさ、樹勢は中位で、果房は赤褐から紫赤色に着色し、「デラウェア」より約1週間遅れ、山梨県では8月上～中旬に収穫となる。自然状態ではほとんどが無核の極小粒果となるが、ジベレリン処理により果粒は肥大し、3.5～4.0gくらいになる。

「キングデラ」は新梢や花穂の生育が揃わないと果房の揃いが悪くなるので、開花前には目標房数の2倍程度着房させ、実止まり後密着、粗着の果房を摘房するとよい。花穂の整形は開花始め頃に行い、副穂と上部の支梗を2つほど外し、房尻を1cm位切り詰める。もともと無核の品種なので、「デラウェア」のようにジベレリン処理により種を抜く必要はないが、果粒肥大のためのジベレリン処理が必要となる。現在2回に分けて処理する方法が一般的である。1回目は満開期を中心（8分咲きから落花直後）に、2回目は満開10～14日後に行い、濃度はいずれも50ppmとする。サビ果が発生しやすいため、1回目、2回目とも処理後の薬液をよくふるい落とすことと、2回目処理前によく花冠を落としておくことが大切である。また、できるだけ雨に当たらないように、2回目処理後早く傘をかけるようにする。結実確認後、密着、粗着の果房を落とし目標房数とする。摘粒の方法は最初に支梗単位で混み合っている部分を抜き、その後見直し摘粒を行う。10a当たりの目標収量は1,600kg、平均果房重を300gとすると10a当たり5,300房程度の着房数となる。樹勢が弱いと着粒、玉張りが不良となる。また、果房が大きすぎると着色障害がやすいので摘粒、房作りを徹底する。

### ■果実特性

自然状態の果房は有岐円錐形でほとんどが無核の小粒果であるが、整形とジベレリン処理により果粒は肥大し、果房は円筒、または円錐形となり、大きさも大となる。果粒の形は自然状態では円形であるが、ジベレリン処理したものは卵形となり、果皮は厚く裂果に強い。肉質は塊状でやや軟らかい。甘みは高く、酸味は中であるが、酸抜けが遅いので収穫時には注意する。

### ■病虫害抵抗性

病害には比較的強く「デラウェア」とほぼ同程度であるが、年によりべと病、晚腐病の発生がみられる。また、サビ果の発生が多いので、開花期を中心に灰色かび病防除、落花後の花かす落としを徹底し、摘粒後はできるだけはやく傘かけを行う。

### ■地域適応性

着色が容易で裂果性もなく、「デラウェア」とほぼ同じ防除体系で栽培可能であるので、比較的容易に栽培できる。地域適応性は比較的広く、いずれのブドウ産地でも栽培可能と思われる。山梨においては露地栽培だけでなく、早期加温ハウスでの栽培も行われている。（櫻井健雄）